

令和7年度 林業普及週間現地情報

森林管理課

竹富町の公共施設における地域材利用に向けて

9月11日(木)

令和7年9月11日(木)、竹富町役場において現在工事が進行中である「西表島世界遺産センター」における八重山地域材の利活用に関して話を伺った。8月1日には、一度、竹富町役場の工事担当部署および林務担当部署の職員と調整していたが、今回は、本施設的设计・監理を担う建築設計事務所の福原氏とも直接お会いし、工事図面も交えて今回の遺産センターにおける地域材利用の詳細を伺うことができた。

設計時点から、八重山地域の木材利用については検討を進め、一部の内装材と構造補助材にセンダンとイヌマキの使用に至ったとのことであった。なお、イヌマキについては、構造補助材としてある程度の強度性能と耐蟻性を踏まえた上で選定されていた。現在、工事受注者において2樹種の方法調達の可否に向けて調整を進めている段階であり、県からも石垣島内の県営林の資源状況も含めて情報提供を行った。

また、八重山地域の中で最も豊富で安定的かつ持続可能な生産が可能なリュウキュウマツの利活用に向けて提案を行ったところ、休憩スペースのベンチや併設するカフェのカウンター材等での使用についてのアイデアも上がり、今後は、竹富町役場において町の環境譲与税の活用も踏まえた上で検討して頂ける運びとなった。さらに、福原氏が八重山地域の森林についても関心を示していただけただけことから、県としては、県営林の造林事業地や島内の林業・木材産業の関係者等を案内することで、地域の森林や林業についてより深く理解してもらうための取り組みも進めつつ、地域材の材料調達の動向や、環境譲与税の活用に関して情報収集および協力を行うことで、円滑な地域材利用に繋がるよう努めていきたい。



(報告者：八重山農林水産振興センター 比嘉、井口)